

消化器系愁訴治療剤

日本薬局方 メトクロプラミド錠
** **メトクロプラミド錠5mg「あすか」**
** **メトクロプラミド錠10mg「あすか」**
METOCLOPRAMIDE TABLETS

	**承認番号	**薬価収載	販売開始
5mg	30100AMX00317	2020年6月	1971年12月
10mg	30100AMX00318	2020年6月	1974年6月
再評価結果			1984年6月

*貯法: 気密容器, 室温保存
使用期限: 外箱等に表示

【禁忌】 (次の患者には投与しないこと)

1. 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
2. 褐色細胞腫の疑いのある患者
[急激な昇圧発作を起こすおそれがある.]
3. 消化管に出血, 穿孔又は器質的閉塞のある患者
[本剤には消化管運動の亢進作用があるため, 症状を悪化させるおそれがある.]

【組成・性状】

**販売名	メトクロプラミド錠5mg「あすか」	メトクロプラミド錠10mg「あすか」				
成分・含量	1錠中 日局メトクロプラミド3.84mg (塩酸メトクロプラミドとして5mg)	1錠中 日局メトクロプラミド7.67mg (塩酸メトクロプラミドとして10mg)				
添加物	カルナウバロウ, 結晶セルロース, 酸化チタン, ステアリン酸マグネシウム, タルク, トウモロコシデンプン, 乳糖水和物, ヒプロメロース, マクロゴール6000, メチルセルロース					
剤形	白色フィルムコーティング錠					
外形	表	側面	裏	表	側面	裏
	直径約6.6mm 厚さ約3.0mm 重量102mg					
識別コード	TZ134		TZ144			

【効能・効果】

次の場合における消化器機能異常(悪心・嘔吐・食欲不振・腹部膨満感)

胃炎, 胃・十二指腸潰瘍, 胆嚢・胆道疾患, 腎炎, 尿毒症, 乳幼児嘔吐, 薬剤(制癌剤・抗生物質・抗結核剤・麻酔剤)投与時, 胃内・気管内挿管時, 放射線照射時, 開腹術後 X線検査時のバリウムの通過促進

【用法・用量】

メトクロプラミド錠5mg「あすか」

メトクロプラミドとして, 通常成人1日7.67~23.04mg(2~6錠)を2~3回に分割し, 食前に経口投与する。

なお, 年齢, 症状により適宜増減する。

メトクロプラミド錠10mg「あすか」

メトクロプラミドとして, 通常成人1日7.67~23.04mg(1~3錠)を2~3回に分割し, 食前に経口投与する。

なお, 年齢, 症状により適宜増減する。

<用法・用量に関連する使用上の注意>

小児では錐体外路症状が発現しやすいため, 過量投与にならないよう注意すること。

【使用上の注意】

1. 慎重投与 (次の患者には慎重に投与すること)

- (1) 小児(「小児等への投与」の項参照)
- (2) 高齢者(「高齢者への投与」の項参照)
- (3) 腎障害のある患者
[高い血中濃度が持続するおそれがある.]
- (4) 脱水・栄養不良状態等を伴う身体的疲弊のある患者
[悪性症候群(Syndrome malin)が起りやすい.]

2. 重要な基本的注意

- (1) 本剤の投与により, 内分泌機能異常(プロラクチン値上昇), 錐体外路症状等の副作用があらわれることがあるので, 本剤の投与に際しては, 有効性と安全性を十分考慮の上投与すること。
- (2) 眠気, めまいがあらわれることがあるので, 本剤投与中の患者には自動車の運転等危険を伴う機械の操作に従事させないように注意すること。
- (3) 制吐作用を有するため, 他の薬剤に基づく中毒, 腸閉塞, 脳腫瘍等による嘔吐症状を不顕性化することがあるので注意すること。

3. 相互作用

【併用注意】 (併用に注意すること)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
フェノチアジン系薬剤 プロクロルペラジン, クフルプロマジン, チエチルペラジン等 ブチロフェノン系薬剤 ハロペリドール等 ラウロルフィアルカロイド 薬剤 レセルピン等 ベンザミド系薬剤 スルピリド, チアプリド等	内分泌機能異常, 錐体外路症状が発現しやすくなる。	本剤及びこれらの薬剤は抗ドパミン作用を有するため, 併用により抗ドパミン作用が強くあらわれる。
ジギタリス剤 ジゴキシン, ジギトキシン等	ジギタリス剤飽和時の指標となる悪心・嘔吐, 食欲不振症状を不顕性化するおそれがある。	本剤の制吐作用による。
カルバマゼピン	カルバマゼピンの中毒症状(眠気, 悪心・嘔吐, 眩暈等)があらわれることがある。	機序不明
抗コリン剤 アトロピン硫酸塩水和物, ブチルスコポラミン臭化物等	相互に消化管における作用を減弱するおそれがある。	本剤は消化管運動を亢進するため, 抗コリン剤の消化管運動抑制作用と拮抗する。

4. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

(1) 重大な副作用

- **1) ショック, アナフィラキシー(頻度不明): ショック, アナフィラキシー(呼吸困難, 喉頭浮腫, 蕁麻疹等)があらわれることがあるので, 観察を十分に行い, 異常が認められた場合には投与を中止し, 適切な処置を行うこと。
- **2) 悪性症候群(Syndrome malin)(頻度不明): 悪性症候群があらわれることがあるので, 無動緘黙, 強度の筋強剛, 嚥下困難, 頻脈, 血圧の変動, 発汗等が発現し, それに引き続き発熱がみられる場合は, 投与を中止し, 体冷却, 水分補給等の全身管理とともに適切な処置を行うこと。本症発症時には, 白血球の増加や血清CK(CPK)の上昇がみられることが多く,

また、ミオグロビン尿を伴う腎機能の低下がみられることがある。なお、高熱が持続し、意識障害、呼吸困難、循環虚脱、脱水症状、急性腎障害へと移行し、死亡した例が報告されている。

- 3) 意識障害(頻度不明)：意識障害があらわれることがある。このような症状があらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
 - 4) 痙攣(頻度不明)：痙攣があらわれることがある。このような症状があらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
 - 5) 遅発性ジスキネジア(頻度不明)：長期投与により、口周部等の不随意運動があらわれ、投与中止後も持続することがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には適切な処置を行うこと。
- (2) その他の副作用

	頻度不明
錐体外路症状 ^(注1)	手指振戦、筋硬直、頸・顔部の攣縮、眼球回転発作、焦躁感
内分泌 ^(注2)	無月経、乳汁分泌、女性型乳房
消化器	胃の緊張増加、腹痛、下痢、便秘
循環器	血圧降下、頻脈、不整脈
精神神経系	眠気、頭痛、頭重、興奮、不安
過敏症 ^(注3)	発疹、浮腫
その他	めまい、倦怠感

注1) このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。なお、これらの症状が強い場合には、抗パーキンソン剤の投与等適切な処置を行うこと。

注2) 観察を十分に行い、異常が認められた場合には直ちに投与を中止すること。

注3) このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。

5. 高齢者への投与

副作用(錐体外路症状等)の発現に注意し、用量並びに投与間隔に留意するなど慎重に投与すること。

[本剤は主として腎臓から排泄されるが、高齢者では腎機能が低下していることが多く、高い血中濃度が持続するおそれがある。]

6. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

- (1) 妊婦又は妊娠している可能性のある女性には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。
[妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。]

- (2) 授乳中の女性への投与は避けることが望ましいが、やむを得ず投与する場合は授乳を避けさせること。
[母乳中に移行することが報告されている。]

7. 小児等への投与

過量投与にならないよう注意すること。特に脱水状態、発熱時等には注意すること。

[錐体外路症状が発現しやすい。]

8. 過量投与

徴候、症状：錐体外路症状、意識障害(昏睡)等があらわれることがある。また外国において、本剤の大量投与によりメトヘモグロビン血症があらわれたとの報告がある。

処置：胃洗浄、対症療法及び維持療法を行う。錐体外路症状に対しては、抗パーキンソン剤等を投与する。

9. 適用上の注意

薬剤交付時

PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること(PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔を起こして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている)。

【薬物動態】

溶出挙動¹⁾

メトクロプラミド錠5mg[あすか]及びメトクロプラミド錠10mg[あすか]は、日本薬局方外医薬品規格第3部に定められた溶出規格に適合していることが確認されている。

【臨床成績】

1. 胃排出機能低下を示す8例に対し、メトクロプラミド1日30mg(塩酸塩として)を4週間経口投与し、排出促進効果が認められた²⁾。

2. 悪心・嘔吐、食欲不振等の消化器系愁訴を訴える胃炎等の患者に、メトクロプラミド錠5mg[あすか]を主として1日3～6錠、1～20週間投与した結果、有効率は76%(176/232)であった³⁻⁹⁾。

【薬効薬理】

1. 機能の低下した消化管に対する運動調整作用によって、胃の運動を亢進させ、幽門部や十二指腸各部を拡張し、胃内容の停滞を除去する。
2. 中枢性、末梢性いずれの嘔吐をも抑制する。アポモルヒネによる嘔吐に対する抑制効果は、84.2%(犬に100 μ g/kg皮下注射)であり、また、硫酸銅による嘔吐にも抑制作用を示す。

【有効成分に関する理化学的知見】

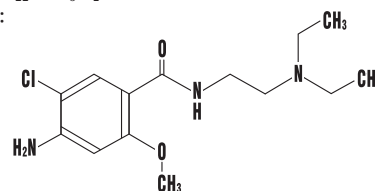
一般名：メトクロプラミド

Metoclopramide [JAN]

化学名：4-Amino-5-chloro-N-[2-(diethylamino)ethyl]-2-methoxybenzamide

分子式：C₁₄H₂₂ClN₃O₂

化学構造式：



分子量：299.80

融点：146～149℃

性状：白色の結晶又は結晶性の粉末で、においはない。酢酸(100)に溶けやすく、メタノール又はクロロホルムにやや溶けやすく、エタノール(95)、無水酢酸又はアセトンにやや溶けにくく、ジエチルエーテルに極めて溶けにくく、水にほとんど溶けない。希塩酸に溶ける。

【取扱い上の注意】

安定性試験¹⁰⁾

最終包装製品を用いた長期保存試験(室温、5年)の結果、メトクロプラミド錠5mg[あすか]及びメトクロプラミド錠10mg[あすか]は通常の市場流通下において5年間安定であることが確認された。

*【包装】

メトクロプラミド錠5mg[あすか]： 100錠(10錠×10)
1,000錠(10錠×100)

メトクロプラミド錠10mg[あすか]： 100錠(10錠×10)

【主要文献】

- 1) 社内資料(溶出試験)
- 2) 奥瀬 哲他：ホルモンと臨床、23：1129, 1975
- 3) 大童一男他：診療と新薬、9：722, 1972
- 4) 稲葉 允他：診療と新薬、11：243, 1974
- 5) 加藤 明：診療と新薬、11：247, 1974
- 6) 高橋 一雄：診療と新薬、11：255, 1974
- 7) 奥野 浩他：診療と新薬、11：259, 1974
- 8) 高橋 信一：診療と新薬、11：267, 1974
- 9) 鈴木 健二：診療と新薬、11：279, 1974
- 10) 社内資料(安定性試験)

*【文献請求先・製品情報お問い合わせ先】

主要文献に記載の社内資料につきましても下記にご請求ください。

あすか製薬株式会社 くすり相談室
〒108-8532 東京都港区芝浦二丁目5番1号
TEL 0120-848-339 FAX 03-5484-8358

製造販売元

あすか製薬株式会社
東京都港区芝浦二丁目5番1号

販売

武田薬品工業株式会社
大阪市中央区道修町四丁目1番1号